

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Kano Y, Tsuchiya K, <u>Watanabe M</u>	New classification based on Atoh1 expression in colon cancer might be useful as Biomarker	第10回日本臨床腫瘍学会	Osaka	2012年7月27日
<u>Watanabe M</u>	Adult Stem Cell Therapy for Gastrointestinal Diseases	International Ulcer Week 2012	Tokyo	2012年7月12日
Kano Y, Tsuchiya K, Horita N, Zheng X, Okamoto R, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	The acquisition of cancer stemness in colon cancer by the Atoh1 protein stabilization	ISSCR2012	Yokohama	2012年6月14日
Yui S, Nakamura T, Nemoto Y, Mizutani T, Fukuda M, Nozaki K, Yamauchi Y, Mochiduki W, Zheng X, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, <u>Watanabe M</u>	Regeneration of damaged colon epithelium by transplanted colon Lgr5+ stem cells maintained and expanded in vitro	第10回幹細胞シンポジウム	Awajishima	2012年6月1日
Tsuchiya K, Kano Y, Mizutani T, Yui S, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	The stabilization of Atoh1 protein in colon cancer acquires cancer stemness and chemoresistance	第10回幹細胞シンポジウム	Awajishima	2012年6月1日
<u>Watanabe M</u>	Stem Cells	DDW2012	San Diego	2012年5月22日
Nemoto Y, Kanai T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Matsumoto S, <u>Watanabe M</u>	Colitogenic effector memory CD4+ T cells develop Th1/Th17 mediated interstitial pneumonia independent to intestinal bacterial antigens	AGA	San Diego	2012年5月22日
Tsuchiya K, Zheng X, Kano Y, Okamoto R, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Flagellin response via TLR5 on basolateral membrane of primary intestinal epithelial cells is regulated by Notch signaling	DDW2012	San Diego	2012年5月22日
Nemoto Y, Kanai T, Matsumoto T, <u>Watanabe M</u>	Colitogenic effector memory CD4+ T cells develop Th1/Th17 mediated interstitial pneumonia independent to intestinal bacterial antigens	DDW2012	San Diego	2012年5月22日
Mizutani T, Nakamura T, Morikawa R, Fukuda M, Mochizuki W, Yamauchi Y, Nozaki K, Yui S, Okamoto R, Tsuchiya K, <u>Watanabe M</u>	Real-time analysis of p-glycoprotein-mediated drug transport across primary intestinal epithelial cells three-dimensionally cultured in vitro	DDW2012	San Diego	2012年5月21日
Okamoto R, Murano T, Shimizu H, Ito G, Tsuchiya K, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Notch signaling regulates expression of Gelsolin superfamily genes, Gelsolin and Scinderin, and promotes re-assembly of actin cytoskeleton in human intestinal epithelial cells	DDW2012	San Diego	2012年5月21日
Kano Y, Tsuchiya K, Horita N, Zheng X, Okamoto R, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	The acquisition of cancer stemness in colon cancer by the Atoh1 protein stabilization	DDW2012	San Diego	2012年5月19日
Fujii T, Naganuma M, Saito E, Nagahori M, <u>Watanabe M</u>	Intravenous tacrolimus therapy can rapidly induce remission in refractory ulcerative colitis	DDW2012	San Diego	2012年5月19日
Murano T, Okamoto R, Shimizu H, Ito G, Tsuchiya K, Nakamura T, <u>Watanabe M</u>	Hes1 promotes IL-22-Mediated epithelial regeneration through enhancement of STAT3-Dependent transcription in human intestinal epithelial cells	AGA	San Diego	2012年5月19日
<u>渡辺 守</u>	IBD診療の進歩と近未来像-治る時代へ-	第11回市民公開講座プログラム 炎症性腸疾患の治療をめぐって	名古屋	2012年12月16日
油井史郎、中村哲也、 <u>渡辺 守</u>	マウスおよびヒトの正常な腸管上皮初代培養法の確立	第3回 Japan Gut Forum	東京	2012年11月24日
<u>渡辺 守</u>	腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生	第14回北関東・甲信越「GUTフォーラム」プログラム	東京	2012年11月24日
<u>渡辺 守</u>	腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生	第50回小腸研究会	京都	2012年11月10日
<u>渡辺 守</u>	～はじめに～治療における医師と患者のギャップ調査	JDDW2012	神戸	2012年10月13日
<u>渡辺 守</u>	「消化器疾患治療の最新のトピックス」大腸：炎症性腸疾患ー最近の進歩ー	JDDW2012	神戸	2012年10月13日
藤井俊光、長堀正和、 <u>渡辺 守</u>	クローン病小腸大腸病変の評価および再燃予測におけるMRエンテロコロノグラフィ（MREC）の有用性	JDDW2012	神戸	2012年10月12日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
渡辺 守	消化器病学会特別企画 1: 日本消化器病学会ガイドライン (大腸ポリープ、機能性消化管障害、NAFLD/NASH) 中間報告	JDDW2012	神戸	2012年10月12日
加納嘉人、土屋輝一郎、渡辺 守	新たな「分化度」スケーリングを用いた大腸癌形質制御と個別化医療への可能性	JDDW2012	神戸	2012年10月11日
渡辺 守	Go beyond usual standard care in Crohn's disease management	JDDW2012	神戸	2012年10月11日
渡辺 守	IBD 治療において免疫調節薬を実際にどう使うか	JDDW2012	神戸	2012年10月11日
渡辺 守	新しい消化管再生医療—難病克服に向けて—	医科学術研究会	千葉	2012年10月4日
土屋輝一郎、加納嘉人、中村哲也、渡辺 守	大腸における幹細胞維持とがん幹細胞発現機構	第44回日本臨床分子形態学会総会・学術集会	高知	2012年9月28日
渡辺 守	腸管幹細胞を用いた消化管上皮再生	平成24年度第1回クリニカルサミット	東京	2012年9月28日
渡辺 守	炎症性腸疾患における内視鏡を考え直す	OMC Gastroenterology & Hepatology Research Group カンファレンス	大阪	2012年9月27日
渡辺 守	大腸上皮幹細胞 一培養系の確立と移植への応用—	がん若手研究者ワークショップ	蓼科	2012年9月6日
藤井俊光、齊藤詠子、長堀正和、長沼 誠、大塚和朗、渡辺 守	MR enterocolonography (MREC) の実際とクローン病小腸大腸病変の評価における有用性	第30回日本大腸検査学会総会	東京	2012年9月1日
長堀正和、藤井俊光、齊藤詠子、渡辺 守、大塚和朗	クローン病診療における当院でのMREC(MR enterocolonography) の試み モニタリングとしての有用性	第30回日本大腸検査学会総会	東京	2012年9月1日
加納嘉人、土屋輝一郎、渡辺 守	新たな分化度スケーリングを用いた大腸がん形質制御とバイオマーカーとしての可能性	第10回 日本臨床腫瘍学会学術集会	大阪	2012年7月27日
根本泰宏、金井隆典、渡辺 守	炎症性腸疾患難治性の要因としての腸炎惹起性メモリーCD4+T 細胞維持機構の解析	第49回 日本消化器免疫学会総会	鹿児島	2012年7月6日
永石宇司、山地 統、戸塚輝治、鬼澤道夫、柘植直人、鈴木雅博、金井隆典、渡辺 守	慢性大腸炎モデルにおける腸炎惹起性T細胞の増殖はIL-7とNK細胞により制御される	第49回 日本消化器免疫学会総会	鹿児島	2012年7月6日
渡辺 守	新しい時代に入ったIBD～考えておくべきこと～	名古屋IBDセミナー	名古屋	2012年6月29日
長堀正和、藤井俊光、齊藤詠子、森尾純子、長沼 誠、渡辺 守	炎症性腸疾患患者における抗TNF α 受容体拮抗薬の選択に関する研究	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月21日
藤井俊光、齊藤詠子、森尾純子、長堀正和、長沼 誠、渡辺 守	難治性潰瘍性大腸炎に対するTacrolimus 静注療法の有用性と安全性の検討	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月21日
水谷知裕、中村哲也、渡辺 守	正常小腸上皮培養細胞を用いたMDR1 依存性薬剤排出機構の解析	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月20日
渡辺 守	日本消化器病学会大腸ポリープ診療ガイドラインを目指して	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月20日
本谷 聡、渡辺 守、日比紀文	日本人クローン病患者に対するアダリムマブ長期継続投与による3年間の寛解維持効果	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月19日
藤井俊光、長沼 誠、渡辺 守	抗体製剤使用炎症性腸疾患患者における血中濃度測定と中和抗体測定の意義	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月19日
中村哲也、渡辺 守	単一幹細胞からの大腸上皮大量培養と細胞移植による大腸上皮再生	第98回 日本消化器病学会総会	東京	2012年4月19日
Tsuchiya K, Zheng X, Kano Y, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M	Flagellin via TLR5 on basolateral membrane of primary intestinal epithelial cells (IEC) shows the role of IEC in the response to bacteria.	UEGW2011	Stockholm	2011年10月26日
Naganuma M, Nagahori M, Fujii T, Akiyama J, Saito E, Watanabe M	Serological test and vaccinations for Measles, Mumps, Rubella, and Varicella Zoster deserve considerations as early as possible after diagnosis of Inflammatory Bowel Disease.	UEGW2011	Stockholm	2011年10月25日
Tsuchiya K, Kano Y, Watanabe M	The stabilization of Atoh1 protein in colorectal cancer mimics mucinous adenocarcinoma.	第70回 日本癌学会学術総会	Nagoya	2011年10月4日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Yui S, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Nagaishi T, Tsuchiya K, Watanabe M, Nakamura T, Okamoto R, Ichinose S, Sato T, Clevers H	Regeneration of damaged colonic tissue by transplanted colonic epithelial stem cells maintained and expanded in vitro.	GI Research Academy 2011	Kyoto	2011年6月17日
Yui S, Nakamura T, Nemoto Y, Mizutani T, Zheng X, Ichinose S, Nagaishi T, Okamoto R, Tsuchiya K, Sato T, Clevers H, Watanabe M	Regeneration of Damaged Colonic Tissue by Transplantation of Colonic Epithelial Stem Cells Maintained and Expanded In Vitro.	DDW2011	Chicago	2011年5月7日
渡辺 守	生物製剤が炎症性腸疾患研究に与えたインパクト	第6回 Tokyo Circulation Seminar	東京	2012年2月2日
加納嘉人、土屋輝一郎、鄭 秀、堀田伸勝、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守	新たな「分化度」スクリーニングを用いた大腸がん形質抑制と個別化医療への可能性	第19回 浜名湖シンポジウム	浜松	2011年12月23日
渡辺 守	大腸上皮幹細胞培養系の確立と移植への応用	第8回 定例基礎棟セミナー	東京	2011年12月14日
渡辺 守	生物製剤が炎症性腸疾患に与えたインパクト	第54回 日本消化器内視鏡学会東海地方会	浜松	2011年12月10日
渡辺 守	新しい時代に入ったクローン病治療を考える	第2回 神奈川 Influximab IBD Strategy Seminar	横浜	2011年12月8日
渡辺 守	新しい時代に入ったクローン病治療を考え直す	第29回 北海道クローン病検討会	札幌	2011年12月2日
渡辺 守	炎症性腸疾患治療の新展開	第39回 内科学の展望／第108回 日本内科学会講演会	横浜	2011年11月13日
渡辺 守	新しい時代に入った IBD 治療を考え直す	第19回 日本消化器病学会関東支部教育講演	東京	2011年11月13日
土屋輝一郎、鄭 秀、加納嘉人、水谷知裕、油井史郎、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守	小腸上皮細胞初代培養による生理的フラジェリン応答解析	第49回 小腸研究会	東京	2011年11月12日
渡辺 守	新しい時代に入った炎症性腸疾患を考える	第105回 みなとセミナー	横浜	2011年10月27日
藤井俊光、長沼 誠、渡辺 守	重症潰瘍性大腸炎に対する Hybrid Tacrolimus 療法の試み	JDDW2011	福岡	2011年10月23日
加納嘉人、土屋輝一郎、渡辺 守	Atoh1 発現大腸癌における悪性形質獲得機構解析	JDDW2011	福岡	2011年10月23日
鈴木伸治、荒木昭博、渡辺 守	原因不明消化管出血 (OGIB) 症例におけるカプセル内視鏡に対するダブルバルーン内視鏡の有用性の検討	JDDW2011	福岡	2011年10月22日
根本泰宏、金井隆典、渡辺 守	炎症性腸疾患病原性メモリーCD4+T細胞は腸管粘膜から全身血流に再循環する	JDDW2011	福岡	2011年10月21日
鄭 秀、土屋輝一郎、岩崎美智子、加納嘉人、水谷知裕、油井史郎、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守	初代培養小腸上皮細胞による生理的フラジェリン応答解析	JDDW2011	福岡	2011年10月20日
山地 統、戸塚輝治、鬼澤道夫、柘植直人、鈴木雅博、永石宇司、金井隆典、渡辺 守	マウス腸炎モデルにおける腸炎惹起性CD4+T細胞の増殖はIL-7とNK細胞により制御される	JDDW2011	福岡	2011年10月20日
長沼 誠、長堀正和、藤井俊光、秋山純子、齋藤詠子、渡辺 守	IBD患者における風疹・麻疹・水痘・ムンプスに対する抗体価測定の意義	JDDW2011	福岡	2011年10月20日
土屋輝一郎、岡本隆一、中村哲也、渡辺 守	IBDにおける消化管上皮の分化制御と免疫応答	第39回 日本臨床免疫学会総会	東京	2011年9月17日
渡辺 守	炎症性腸疾患における内視鏡を考え直す	山梨 IBD 講演会 2011	甲府市	2011年9月8日
鈴木康平、秋山純子、藤井俊光、櫻井 幸、福田将義、吉野耕平、竹中健人、東 正新、鈴木伸治、長堀正和、長沼 誠、坂本直哉、渡辺 守、小林宏寿、杉原健一、伊藤栄作、三浦圭子	術後に判明した空腸異所性膵炎の一例	第16回 お茶の水消化器セミナー	東京	2011年8月27日
渡辺 守	治りにくい炎症性腸疾患 新しい視点で繙く	第9回 三重 IBD 研究会	津	2011年8月4日
渡辺 守	新しい時代に入ったクローン病治療を考える	第5回 多摩 GI-Endoscopy 研究会	東京	2011年6月30日
渡辺 守	抗 TNF 製剤が炎症性腸疾患治療に与えたインパクト	第15回 日本適応医学会学術集会	浜松	2011年6月25日
渡辺 守	炎症性腸疾患における腸上皮自然炎症調節機構の破綻	新学術領域：平成23年度第2回領域班会議	東京	2011年6月24日
渡辺 守	炎症性腸疾患の病態を新しい側面から繙く	第2回 炎症性腸疾患と免疫を語る会	横浜	2011年6月22日
渡辺 守	新しい時代に入った炎症性腸疾患を考える	第7回 静岡県 IBD 研究会	静岡	2011年6月17日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
渡辺 守	クローン病	第140回 日本医学会シンポジウム	東京	2011年6月9日
渡辺 守	生物製剤がクローン病治療に与えたインパクト	第32回 日本炎症・再生医学会	京都	2011年6月2日
渡辺 守	炎症性腸疾患の分子標的治療	フォーラム富山「創薬」第33回 研究会	富山	2011年5月20日
藤井俊光、長沼 誠、渡辺 守	免疫調整剤/分子生物製剤を用いた難治性潰瘍性大腸炎に対する治療戦略	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月15日
渡辺 守	クローン病に生物学的製剤をどのように使っていくのか～いつ?誰に?何を?どのように?～	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月15日
秋山純子、長沼 誠、藤井俊光、玄 世鋒、長堀正和、渡辺 守	チオプリン、タクロリムス不応例潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ(IFX)の検討	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月15日
渡辺 守	生物学的製剤がもたらした新しい時代の炎症性腸疾患治療	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月14日
中村哲也、渡辺 守	再生医療へ向けた腸管上皮研究～幹細胞体外培養と細胞移植～	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月14日
渡邊聡明、渡辺 守、日比紀文	潰瘍性大腸炎合併癌に対する診断および治療に関する現状および今後の展望	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月14日
長沼 誠、長堀正和、国崎玲子、木村英明、吉村直樹、酒匂美奈子、河口貴昭、高添正和、山本正二郎、松井敏幸、日比紀文、渡辺 守	本邦におけるIBD患者の妊娠・出産の転帰に関する検討	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月14日
渡辺 守	炎症性腸疾患における免疫異常と腸上皮分化・修復・再生障害の接点	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13日
玄 世鋒、長沼 誠、渡辺 守	MR エンテロコロノグラフィ(MREC)によるクローン病の小腸大腸病変の同時評価の検討	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13日
根本泰宏、金井隆典、渡辺 守	CD4+CD45RBhighT細胞移入大腸炎マウスの病態における腸内細菌の役割	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13日
長沼 誠、藤井俊光、国崎玲子、山本慧恵、吉村直樹、高添正和、竹内義明、渡辺 守	免疫調節薬・抗体製剤使用IBD患者におけるインフルエンザ感染症の現状	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13日
渡辺 守、本谷 聡	クローン病治療 新時代の幕開け	第97回 日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13日
Fujii T, Kanai T, Tomita T, Nemoto Y, Totsuka T, Naganuma M, Nagahori M, Watanabe M	FTY720 suppresses the Development of Colitis by Modulating the Trafficking of Colitogenic CD4+ T cells in Bone Marrow.	2010 Advances in Inflammatory Bowel Diseases Crohn's & Colitis Foundation's Clinical & Research Conference	Froilida	2010年12月10日
Nakamura T, Watanabe M	A long-term, fully-defined culture system for colonic epithelial cells that allows efficient expansion of stem cell compartment	The 1st JSGE International Topic Conference -Stem Cells in Digestive Organs-	Kamakura	2010年9月25日
Watanabe M	Novel insight into the pathogenesis of inflammatory bowel disease	International Symposium of Advances in Medical and Surgical Treatment of Colorectal disorders 10-13 de august 2010	Chile	2010年8月12日
Zheng X, Tsuchiya K, Okamoto R, Iwasaki M, Kano Y, Nakamura T, Watanabe M	Hes1 via Notch signaling directly suppresses Atoh1/Hath1 gene transcription, resulting in the goblet cell depletion of Ulcerative Colitis.	DDW2010	New Orleans	2010年5月3日
Watanabe M	Key issues in the pathogenesis of UC: How much do we know?	第96回 日本消化器病学会総会	Niigata	2010年4月23日
長沼 誠、渡辺 守	難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス初期投与量と血中トラフ値の推移の検討(多施設協同研究)	第52回 日本消化器病学会大会	横浜	2010年10月14日
根本泰宏、金井隆典、渡辺 守	腸炎惹起性メモリーCD4+T細胞再循環経路をターゲットとした炎症性腸疾患の治療戦略	第52回 日本消化器病学会大会	横浜	2010年10月14日
長堀正和、玄 世鋒、渡辺 守	クローン病における thioprinies 併用 infliximab 計画的維持投与例の検討と、維持困難例での methotrexate の有用性	JDDW2010	横浜	2010年10月13日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
渡辺 守	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	難治性疾患克服研究推進事業研究成果発表会 難治性疾患克服研究の成果と今後	東京	2010年5月23日
長沼 誠、長堀正和、渡辺 守	Infliximab 時代における免疫調節剤の有用性	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22日
藤田 浩、沼田政嗣、井戸章雄、宮田生弥子、鮫島洋一、小野陽平、上村修司、瀬戸山仁、森内昭博、船川慶太、桶谷 真、大井秀久、坪内博仁	炎症性腸疾患患者におけるB型肝炎ウイルスマーカーの現状	第101回日本消化器病学会九州支部例会	北九州市	2013年6月1日
井戸章雄、桶谷 真、坪内博仁	B型肝炎ウイルス再活性化による劇症肝炎の現状	第16回日本肝臓学会大会	神戸市	2012年10月1日
Ibusuki K, Sakiyama T, Iwashita Y, Hashimoto S, Kanmura S, Tsubouchi H.	Human neutrophil peptides induce IL-8 and ICAM-1 in intestinal epithelial cells.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月10日
Hashimoto S, Uto H, Kanmura S, Sakiyama T, Sasaki F, Ibusuki K, Iwashita Y, Moriuchi A, Fujita H, Setoyama H, Oketani M, Ido A, Tsubouchi H.	Human neutrophil peptides exacerbate experimental colitis through a T cell-independent mechanism.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月8日
Hashimoto S, Uto H, Kanmura S, Sakiyama T, Sasaki F, Ibusuki K, Iwashita Y, Moriuchi A, Fujita H, Setoyama H, Oketani M, Ido A, Tsubouchi H.	Human neutrophil peptide-1 aggravates dextran sulfate sodium-induced colitis.	The 5th Korea-Japan Inflammatory Bowel Disease Symposium	Seoul, Korea	2010年10月2日
橋元慎一、宇都浩文、坪内博仁	Human Neutrophil Peptide-1はTリンパ球非依存的にDSS腸炎を悪化させる	第19回日本消化器関連学会週間 JDDW2011	福岡市	2011年10月21日
橋元慎一、宇都浩文、崑山敏男、上村修司、岩下祐司、指宿和成、佐々木文郷、屋万栄、田ノ上史郎、那須雄一郎、藤田 浩、桶谷真、井戸章雄、坪内博仁	Human Neutrophil Peptide-1はSCIDマウスにおけるDSS大腸炎を増悪する	第48回日本消化器免疫学会総会	金沢市	2011年7月21日
指宿和成、崑山敏男、上村修司、前田拓郎、有馬志穂、岩下祐司、隈元 亮、佐々木文郷、山路尚久、瀬戸山仁、船川慶太、井戸章雄、坪内博仁	Human neutrophil peptideは腸管上皮細胞IL-8、ICAM-1の発現を亢進させる	第52回日本消化器病学会大会	横浜市	2010年10月13日
Sasaki F, Ido A, Sakiyama T, Takami Y, Kumagai K, Nasu Y, Hashimoto S, Kanmura S, Moriuchi A, Uto H, Tsubouchi H.	Osteoactivin expressed in macrophages infiltrating into injured intestinal mucosa negatively regulates experimental colitis in mice.	The 6th Korea-Japan IBD Symposium	Seoul, Korea	2010年10月2日
Sasaki F, Ido A, Sakiyama T, Takami Y, Kumagai K, Nasu Y, Hashimoto S, Kanmura S, Moriuchi A, Uto H, Oketani M, Tsubouchi H.	Osteoactivin expressed in intestinal macrophages negatively regulates inflammation.	Digestive Disease Week 2010	New Orleans, USA	2010年5月5日
佐々木文郷、井戸章雄、高見陽一郎、熊谷公太郎、那須雄一郎、橋元慎一、上村修司、船川慶太、崑山敏男、宇都浩文、桶谷 真、坪内博仁.	マウスDSS実験腸炎モデルにおけるオステオアクチビンの役割	第52回日本消化器病学会大会	横浜市	2010年10月13日
佐々木文郷、井戸章雄、高見陽一郎、熊谷公太郎、岩下祐司、指宿和成、上村修司、崑山敏男、宇都浩文、桶谷 真、坪内博仁.	マクロファージに発現するオステオアクチビンのマウス実験腸炎における役割	第47回日本消化器免疫学会総会	大津市	2010年7月9日
佐々木文郷、井戸章雄、高見陽一郎、熊谷公太郎、那須雄一郎、橋元慎一、上村修司、瀬戸山 仁、船川慶太、森内昭博、崑山敏男、宇都浩文、桶谷 真、坪内博仁	炎症性腸疾患における炎症のフィードバック調節因子 osteoactivin の役割の解明	第96回日本消化器病学会総会	新潟市	2010年4月22日
小野陽平、上村修司、田中啓仁、牧野智礼、小田耕平、沼田政嗣、船川慶太、藤田 浩、宇都浩文、井戸章雄、坪内博仁	RANTESは潰瘍性大腸炎に対する血球成分除去療法の効果予測マーカーである	第50回日本消化器免疫学会	東京	2013年8月1日
上野文昭、松井敏幸、渡辺 守	炎症性腸疾患診療ガイドライン改訂の現状と課題. 消化器病学会特別企画: GRADE システムに準じて作成された新ガイドライン最終報告	第55回日本消化器病学会大会	グランドプリンスホテル高輪	2013年10月9日
上野文昭	「潰瘍性大腸炎」炎症性腸疾患内科治療の進歩と課題(ガイドラインをまじえて). 炎症性腸疾患-最近の進歩-	第140回日本医学会シンポジウム	日本医師会館	2011年6月9日
上野文昭、松井敏幸	クローン病診療ガイドライン: 消化器病医からみた日本消化器病学会診療ガイドラインの評価とコンセンサス	第97回日本消化器病学会総会	京王プラザホテル	2011年5月14日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Bamba S, Tsujikawa T, Ban H, Imaeda H, Mochizuki Y, Inatomi O, Sasaki M, Saitoh Y, Andoh A, <u>Fujiyama Y.</u>	Predicting mucosal healing in Crohn's disease using practical indices with regard to the location of active disease.	United European Gastroenterology Week 2013	Berlin	2013年10月15日
Fujimoto T, Imaeda H, Takahashi K, Kanda T, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A	Evaluation of and quantification of Faecalibacterium prausnitzii in the gut microbiota of Crohn's disease.	16th International Congress of Mucosal Immunology	Vancouver	2013年6月18日
Takahashi K, Imaeda H, Fujimoto T, Knada T, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A	Counter-regulation of eotaxin-3/CCL26 expression by Th1 and Th2 cytokines in human colonic myofibroblast.	16th International Congress of Mucosal Immunology	Vancouver	2013年6月18日
Ban H, Imaeda H, Takahashi K, Fujimoto T, Kanda T, Osaki R, Bamba S, Sasaki M, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A.	The ATP-cassette binding protein 4 (ABCC4)/ multidrug resistance protein 4 (MRP4) polymorphism is a new factor accounting for thiopurine sensitivity in Japanese patients with inflammatory bowel disease.	The 1st Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis	Tokyo	2013年6月13日
Imaeda H, Takahashi K, Fujimoto T, Bamba S, Sasaki M, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y</u> , Andoh A	Accurate determination of serum adalimumab and anti-adalimumab antibodies levels during maintenance therapy for Crohn's disease.	Digestive Disease Week 2013 (The Annual Meeting of American Gastroenterology Association)	Orland	2013年5月19日
Imaeda H, Andoh A, Takahashi K, Fujimoto T, Ban H, Bamba S, <u>Fujiyama Y.</u>	Serum infliximab trough levels above 1.0 microgram/ml are required to obtain clinical efficacy in patients with Crohn's disease.	2012 Advances in Inflammatory Bowel Diseases. Crohn's & Colitis Foundation's National Clinical & Research Conference	Hollywood	2012年12月14日
Fukunaga K, Watanabe K, Ito H, Sawada K, Nishishita M, <u>Fujiyama Y</u> , Okazaki K, Matsumoto T	Quality of life after remission induction by adsorptive granulocyte/monocyte apheresis predicts the long-term prognosis of ulcerative colitis patients: A prospective multicenter study.	Digestive Disease Week 2012 (The Annual Meeting of American Gastroenterology Association)	San Diego	2012年5月19日
Imaeda H, Andoh A, Ban H, Bamba S, Sasaki M, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y</u>	The new immunoassay for the accurate determination of antibodies to infliximab, and relationship between its serum level and inflammatory values in Crohn's disease.	Digestive Disease Week 2012 (The Annual Meeting of American Gastroenterology Association)	San Diego	2012年5月19日
Andoh A, Imaeda H, <u>Fujiyama Y.</u>	Molecular analysis of the diversity of the gut microbiota of health and disease (IBD) in Japanese population.	The 3rd International Forum of the 98th General Meeting of the Japanese Society of Gastroenterology	Tokyo	2012年4月20日
Andoh A, <u>Fujiyama Y</u>	Therapeutic approaches targeting gut microbiota in inflammatory bowel disease.	International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods	Sapporo	2011年11月15日
Hirai F, Watanabe K, Kubokura N, Esaki M, Nakamura S, Yano Y, Kamata N, Iimuro M, Yamagami H, Matsumoto T, Matsumoto T, <u>Matsui T</u>	Investigation of adherence to Adalimumab self-injection treatment -a multicenter patient questionnaire Pearl survey-	8th European Crohn's and Colitis Organisation	Vienna	2013年02月14日-16日
Takatsu N, Yasaka M, Yano Y, Hirai F, <u>Matsui T</u>	Efficacy of Infliximab as Rescue Therapy for Ulcerative Colitis Refractory to Tacrolimus	Abstracts from the 2012 Advances in Inflammatory Bowel Diseases Crohn's & Colitis Foundation's National Clinical & Research Conference	Florida	2012年12月13日-15日
Ono Y, Hirai F, <u>Matsui T</u> , Beppu T, Yano Y, Takatsu N, Higashi D, Futami K	The value of concomitant endoscopic balloon dilation for intestinal stricture during long-term infliximab therapy in patients with Crohn's disease	The 6th Korea-Japan IBD Symposium	東京	2012年1月28日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
<u>Matsui T</u>	Endoscopic diagnosis and treatment of Crohn's disease	Social lecture in 41st Annual Meeting of GEST(The Gastroenterological Society of Taiwan)and the 20th Annual Meeting of DEST(The Digestive Endoscopy Society of Taiwan)	台湾	2011年3月4日-6日
Hirai F, <u>Matsui T</u>	Effectiveness of concomitant enteral nutrition therapy with infliximab for maintenance treatment of crohn's disease: a retrospective multi-center study	18th UEGW	Barcelona	2010年10月23日-27日
Beppu T, Hirai F, <u>Matsui T</u>	Clinical efficacy and safety of endoscopic balloon dilation therapy using double-ballon endoscopy for the small intestinal strictures in patients with Crohn's disease	5th Japan-Korea IBD Symposium	韓国	2010年10月2日
HisabeT, <u>Matsui T</u> , Ninomiya K, Sato Y, Yao K, Futami K, Iwashita A	Wireless capsule endoscopy in patients with ulcerative colitis	1st ICCD international conference on capsule endoscopy and double balloon endoscopy	Paris	2010年8月27日-28日
Watanabe, C., Komoto, S., Kurihara, C., Okada, Y., Narimatsu, K., Sato, H., Hozumi, H., Hokari, R., <u>Miura, S.</u>	Increased prevalence of celiac specific antibody in Japanese IBD patients and the effect of gluten intake.	Digestive Disease Week 2013	Orlando, USA	2013年5月18-21日
Okada, Y., Tsuzuki, Y., Sato, H., Narimatsu, K., Hokari, R., Tomita, K., Kurihara, C., Kawaguchi, A., Nagao, S., <u>Miura, S.</u>	Bone marrow dendritic cells exposed to trans-fatty acids exacerbate DSS-induced colitis through promotion of TH17 differentiation and up-regulation of proinflammatory cytokines.	Digestive Disease Week 2013	Orlando, USA	2013年5月18-21日
Narimatsu, K., Hokari, R., Yasutake, Y., Sato, H., Hozumi, H., Sato, S., Kurihara, C., Okada, Y., Watanabe, C., Komoto, S., Tomita, K., Kawaguchi, A., Nagao, S., <u>Miura, S.</u>	Lipoarabinomannan, toll-like receptor 2 agonist, attenuates indomethacin-induced intestinal lesions through modulating leukocyte migration and TNFalpha production.	Digestive Disease Week 2013	Orlando, USA	2013年5月18-21日
Sato, S., Yang, Q., Kohan, A.B., Wang, F., <u>Miura, S.</u> , Tso, P	Lipid absorption stimulates both GLP-1 and GLP-2 secretion into lymph.	Digestive Disease Week 2013	Orlando, USA	2013年5月18-21日
Kurihara, C., Hokari, R., Sato, S., Hozumi, H., Sato, H., Narimatsu, K., Yasutake, Y., Okada, Y., Watanabe, C., Komoto, S., Tomita, K., Kawaguchi, A., Nagao, S., <u>Miura, S.</u>	Fatty acids exposure modifies mRNA expression of inflammatory cytokines in macrophages induced by enterobacteria.	Digestive Disease Week 2013	Orlando, USA	2013年5月18-21日
Narimatsu K Hokari R, Ueda, T, Sato S, Hozumi, H, Sato H, Kurihara C, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Amelioration of NSAID-induced small intestinal lesions by Toll-like receptor 2 agonist through decreasing leukocytes migration to intestinal mucosa.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Kurihara C, Hokari R, Ueda, T, Sato S, Hozumi, H, Sato H, Narimatsu K; Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Modulation of cytokine mRNA expression in intestinal macrophages through liver X receptor-alpha.	Digestive Disease Week 2012	San Diego	2012年5月19-22日
Sato H, Narimatsu K Hokari R, Ueda, T, Sato S, Hozumi, H, Kurihara C, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Increased expression of lymphangiogenesis-related molecules in intestinal mucosa of patients with inflammatory bowel diseases.	Digestive Disease Week 2012	San Diego	2012年5月19-22日
Hozumi H, Hokari R, Kurihara C, Ueda T, Sato S, , Sato H, Narimatsu K; Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Spontaneous hemorrhage observed in endoscopic findings suggests increased expression of tumor necrosis factor- α in colonic mucosa of ulcerative colitis.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Hozumi H, Hokari R, Kurihara C, Ueda T, Sato S, , Sato H, Narimatsu K; Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Inhibition of autotaxin-lysophosphatidic acid axis significantly ameliorates chronic intestinal damage by modulating lymphocytes migration to intestinal mucosa.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Ueda T, Hokari R, Kurihara C, Sato S, Hozumi H, Sato H, Narimatsu K, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Recombinant thrombomodulin modulates murine colitis via inhibition of HMGB1.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Sato S, Hokari R, Kurihara C, Ueda T, Hozumi H, Sato H, Narimatsu K, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Dietary lipid and sweetener regulate secretion of glucagon-like peptide-2 (GLP-2) from intestine in a different manner.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Watanabe C, Hokari R, Kurihara C, Ueda T, Hozumi H, Sato H, Narimatsu K, Okada Y, Sato S, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Prevalence of celiac disease in patients with inflammatory bowel disease: A study from Japan.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Narimatsu K, Hokari R, Ueda T, Sato S, Hozumi H, Sato H, Kurihara C, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Amelioration of NSAID-induced small intestinal lesions by Toll-like receptor 2 agonist through decreasing leukocytes migration to intestinal mucosa.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Okada Y, Tsuzuki Y, Hokari R, Watanabe C, Kurihara C, Ueda T, Hozumi H, Sato H, Narimatsu K, Sato S, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	A novel vegetable-derived probiotics (VDP) exerts a therapeutic effect on DSS induced colitis possibly mediated by IL-27 producing CD11c+ dendritic cells.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Okada Y, Tsuzuki Y, Hokari R, Watanabe C, Kurihara C, Ueda T, Hozumi H, Sato H, Narimatsu K, Sato S, Komoto S, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Trans fatty acids exposure induced expression of proinflammatory cytokines and NK-1R in colonic epithelial cells by phosphorylation of p38.	Digestive Disease Week 2012	San Diego, USA	2012年5月19-22日
Watanabe C, Komoto S, Hokari R, <u>Miura S.</u>	Clinical features of elderly inflammatory bowel disease patients in Japan.	The 2011 Advances in Inflammatory Bowel Diseases Crohn's & Colitis Foundation's National Clinical & Research Conference.	Hollywood, Florida, USA	2011年12月1-3日
Sato S, Hokari R, Hozumi H, Ueda T, Higashiyama M, Okada Y, Kurihara C, Komoto S, Watanabe C, Nakamura M, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	The combination of dietary lipids and a sweetener creates a synergy on the intestinal glucagon-like peptide (GLP-2) secretion.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月7-10日
Hozumi H, Hokari R, Sato S, Ueda T, Higashiyama M, Okada Y, Kurihara C, Watanabe C, Komoto S, Nakamura M, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Increased expression of autotaxin/lysophospholipase D on intestinal vessels involves in aggravation of intestinal damage through lymphocytes migration.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月7-10日
Ueda T, Hokari R, Higashiyama M, Kurihara C, Okada Y, Hozumi H, Sato S, Watanabe C, Komoto S, Tomita K, Nakamura M, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Dietary fat aggravates NSAID-induced small intestinal damage via modulation of leukocyte migration in mice.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月7-10日
Higashiyama M, Hokari R, Hozumi H, Kurihara C, Ueda T, Watanabe C, Tomita K, Nakamura M, Komoto S, Okada Y, Kawaguchi A, Nagao S, Suematsu M, Goda N, <u>Miura S.</u>	HIF-1 in T cells ameliorates intestinal inflammation by controlling regulatory T cell homeostasis.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月7-10日
Okada Y, Yoshikazu T, Higashiyama M, Ueda T, Hozumi H, Sato S, Hokari R, Kurihara C, Komoto S, Nakamura M, Watanabe C, Tomita K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	A novel vegetable-derived probiotics (VDP) modulates proinflammatory cytokines and substance P expression on colonic tissue and attenuated DSS-induced colitis.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月7-10日
Kurihara C, Hokari R, Higashiyama M, Ueda T, Hozumi H, Sato S, Okada Y, Watanabe C, Komoto S, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Cytokine mRNA expression after exposure to fatty acids is differently modulated in macrophages from small intestine and colon.	Digestive Disease Week 2011	Chicago, USA	2011年5月7-10日
Sato S, Hokari R, Hozumi H, Ueda T, Higashiyama M, Okada Y, Kurihara C, Watanabe C, Nakamura M, Wakabayashi K, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Effect of different kind of dietary lipid on glucagon-like peptide-2 (GLP-2) concentration in intestinal lymph of rats.	Digestive Disease Week 2010	New Orleans, USA	2010年5月2-5日
Hozumi H, Hokari R, Sato S, Ueda T, Higashiyama M, Okada Y, Kurihara C, Watanabe C, Wakabayashi K, Nakamura M, Kawaguchi A, Nagao S, <u>Miura S.</u>	Increased expression of autotaxin/lysophospholipase D in intestinal mucosa of Crohn's disease patients.	Digestive Disease Week 2010	New Orleans, USA	2010年5月2-5日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Higashiyama M, Hokari R, Kurihara C, Matsunaga H, Ueda T, Watanabe C, Okada Y, Wakabayashi K, Nakamura M, Kawaguchi A, Nagao S, Miura S.	PDE3 inhibitor cilostazol, ameliorates small intestinal lesions induced by indomethacin.	Digestive Disease Week 2010	New Orleans, USA	2010年5月2-5日
Okada Y, Tsuzuki Y, Higashiyama M, Ueda T, Hozumi H, Sato S, Hokari R, Kurihara C, Watanabe C, Nakamura M, Wakabayashi K, Kawaguchi A, Nagao S, Miura S.	Trans-fatty acids exacerbate DSS-induced colitis through up-regulation of macrophage-derived proinflammatory cytokines.	Digestive Disease Week 2010	New Orleans, USA	2010年5月2-5日
Higashiyama M, Ogata S, Nishiyama J, Matsuzaki K, Ohara I, Okusa Y, Adachi Y, Hokari R, Miura S.	Clinical and epidemiological features of human intestinal spirochetosis in Japan.	Digestive Disease Week 2010	New Orleans, USA	2010年5月2-5日
佐藤宏和、穂苺量太、安江千尋、堀内和樹、吉松亜希子、尾崎隼人、井上梯仁、古橋廣崇、山下允孝、安武優一、成松和幸、佐藤伸悟、八月朔日秀明、碓井真吾、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、永尾重昭、三浦総一郎	クローン病における内視鏡検査とMR enterographyの有用性に関する比較	第97回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2013年12月14-15日
西村弘之、井上梯仁、尾崎隼人、古橋廣崇、山下允孝、安江千尋、堀内和樹、吉松亜希子、丸田紘史、安武優一、佐藤宏和、成松和幸、碓井真吾、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、穂苺量太、永尾重昭、三浦総一郎	内視鏡で診断し得た Henoch-Schönlein 紫斑病の2例	第97回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2013年12月14-15日
安武優一、成松和幸、佐藤宏和、八月朔日秀明、佐藤伸悟、碓井真吾、渡辺知佳子、高本俊介、穂苺量太、三浦総一郎	炎症性腸疾患における尿酸の役割の検討	第41回日本潰瘍学会	大阪	2013年12月6-7日
堀内和樹、安江千尋、吉松亜希子、西井 慎、清水基規、高城 健、伊藤 傑、溝口明範、井上梯仁、尾崎隼人、古橋廣崇、山下允孝、安武優一、佐藤宏和、成松和幸、碓井真吾、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、穂苺量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	治療経過を内視鏡で追うことのできた Cronkhite-Canada 症候群の一例	第31回日本大腸検査学会総会	東京	2013年11月29-30日
成松和幸、佐藤宏和、八月朔日秀明、佐藤伸悟、碓井真吾、渡辺知佳子、高本俊介、穂苺量太、三浦総一郎	炎症性腸疾患における尿酸の働き	第68回日本大腸肛門病学会学術集会	東京	2013年11月15-16日
渡辺知佳子、穂苺量太、高本俊介、三浦総一郎	Cronkhite-Canada 症候群の本邦における現状調査	第51回小腸研究会	名古屋	2013年11月9日
岡田義清、都築義和、三浦総一郎	伝統的発酵食品ふなずし由来新規プロバイオティクス療法の有用性についての検討	第55回日本消化器病学会大会、第44回日本消化吸収学会総会、JDDW2013	東京	2013年10月9-12日
岡田義清、都築義和、佐藤宏和、成松和幸、安武優一、穂苺量太、富田謙吾、栗原千枝、高本俊介、渡辺知佳子、永尾重昭、三浦総一郎	ふなずし由来新規ラクトバシラス属菌が有する強力な大腸炎抑制の作用機序	第50回日本消化器免疫学会総会	東京	2013年8月1-2日
高本俊介、穂苺量太、富田謙吾、渡辺知佳子、佐藤伸悟、八月朔日秀明、佐藤宏和、成松和幸、安武優一、高城 健、清水基規、山下允孝、井上梯仁、尾崎隼人、古橋廣崇、山寺勝人、長谷和生、永尾重昭、三浦総一郎	小腸穿孔により緊急手術を要した高齢者クローン病の2例	第16回日本高齢消化器病学会	名古屋	2013年7月6日
西井 慎、清水基規、高城 健、伊藤 傑、溝口明範、井上梯仁、尾崎隼人、古橋廣崇、山下允孝、安武優一、佐藤宏和、成松和幸、渡辺知佳子、富田謙吾、高本俊介、穂苺量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	治療経過を内視鏡で追うことができた Cronkhite-Canada 症候群の一例	第96回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2013年6月15-16日
佐藤宏和、穂苺量太、三浦総一郎	炎症性腸疾患の大腸粘膜におけるリンパ管新生因子の発現亢進に関する検討	第36回日本リンパ学会総会	福岡	2013年6月14-15日
成松和幸、穂苺量太、三浦総一郎	NSAIDs 惹起性小腸潰瘍に対する Toll-like receptor 2 を介した治療法の検討	第99回日本消化器病学会総会	鹿児島	2013年3月21-23日
成松和幸、穂苺量太、安武優一、佐藤宏和、栗原千枝、岡田義清、渡辺知佳子、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Amelioration of NSAID-induced small intestinal lesions by Toll-like receptor 2 agonist through decreasing leukocyte migration to intestinal mucosa.	第38回日本微小循環学会総会	東京	2013年2月8-9日
成松和幸、穂苺量太、佐藤宏和、佐藤伸悟、八月朔日秀明、上田俊秀、東山正明、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Toll-like receptor 2 agonist によるインドメサシン (IND) 起因性小腸潰瘍の抑制効果	第9回日本消化管学会総会学術集会	東京	2013年1月25-26日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
三浦総一郎	教育講演：炎症性腸疾患の栄養指導	第16回日本病態栄養学会 年次学術集会	京都	2013年1月12-13日
渡辺知佳子、穂苺量太、高本俊介、三浦総一郎	当科におけるセリアック病の実態調査：疾患特異的血清抗体と炎症性腸疾患の関連について	第50回小腸研究会	京都	2012年11月7日
穂苺量太、上田俊秀、東山正明、富田謙吾、岡田義清、栗原千枝、成松和幸、佐藤宏和、渡辺知佳子、高本俊介、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	腸管炎症における脂肪摂取の影響- ω -3系多価不飽和脂肪酸の2面性	第9回日本在宅静脈経腸 栄養研究会学術集会	名古屋	2012年10月20日
渡辺知佳子、穂苺量太、三浦総一郎	我が国における炎症性腸疾患とセリアック病の関連について	第54回日本消化器病学会大会、JDDW2012	神戸	2012年10月10-13日
鈴木博久、東山正明、緒方 衝、穂苺量太、上田俊秀、佐藤宏和、成松和幸、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	内視鏡検査時の捺印細胞診で治療経過が追えたヒト腸管スピロヘータ症の1例	第30回日本大腸検査学会総会	東京	2012年9月1日
佐藤宏和、穂苺量太、成松和幸、上田俊秀、東山正明、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、栗原千枝、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	炎症性腸疾患におけるリンパ管新生における検討	第30回日本大腸検査学会総会	東京	2012年9月1日
成松和幸、東山正明、佐藤宏和、八月朔日秀明、上田俊秀、佐藤伸悟、渡辺知佳子、栗原千枝、岡田義清、高本俊介、富田謙吾、穂苺量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Toll-like receptor 2 agonist によるインドメタシン起因性小腸潰瘍の抑制効果	第40回日本潰瘍学会総会	東京	2012年7月12-14日
成松和幸、佐藤宏和、東山正明、上田俊秀、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、穂苺量太、三浦総一郎	NSAIDs 起因性小腸潰瘍に対する Toll-like receptor 2 agonist の抑制効果	第49回日本消化器免疫学会総会	鹿児島	2012年7月5-6日
三浦総一郎	教育講演：炎症性腸疾患診療の進歩	第20回日本消化器病学会 関東支部教育講演会	大宮	2012年6月17日
丸田紘史、因幡健一、和田晃典、岩城智之、寺田尚人、種本理那、高城 健、清水基規、安武優一、佐藤宏和、成松和幸、佐藤伸悟、渡辺知佳子、高本俊介、穂苺量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	当院における下部消化管出血の診断と治療の現況	第83回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2012年5月12-14日
渡辺知佳子、穂苺量太、高本俊介、富田謙吾、三浦総一郎	本邦におけるセリアック病の実態の臨床調査～炎症性腸疾患患者における合併の可能性について～	第98回日本消化器病学会総会	東京	2012年4月19-21日
八月朔日秀明、穂苺量太、栗原千枝、佐藤宏和、成松和幸、佐藤伸悟、上田俊秀、東山正明、岡田義清、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Expression of autotaxin/lysophospholipase D in high endothelial venule-like vessel and its role on aberrant lymphocyte migration in inflamed intestinal mucosa.	第37回日本微小循環学会総会	盛岡	2012年3月16-17日
Kurihara C, Hokari R, Ueda T, Sato S, Hozumi H, Sato H, Narimatsu K, Okada Y, Watanabe C, Tomita K, Komoto S, Kawaguchi A, Nagao S, Miura S.	Macrophages preexposed to heat-killed feces show hyporesponsiveness to mRNA expression of inflammatory cytokines induced by fatty acids exposure.	The 5th Korea-Japan Inflammatory Bowel Disease Symposium	Tokyo	2012年1月28日
三浦総一郎	講演：IBDにおけるリンパ球ホーミングと管腔内因子	第11回難治性免疫疾患 先端治療開発研究会	東京	2011年12月2日
上田俊秀、穂苺量太、三浦総一郎	リコンビナント・リコモデュリンはマウス DSS 腸炎を改善する	第39回日本潰瘍学会	つくば市	2011年11月18-19日
佐藤伸悟、穂苺量太、八月朔日秀明、上田俊秀、岡田義清、栗原千枝、渡辺知佳子、中村光康、富田謙吾、高本俊介、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Glucagon-like peptide-2 分泌に与える甘味成分の影響について	第49回小腸研究会	東京	2011年11月12日
穂苺量太、渡辺知佳子、高本俊介、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、栗原千枝、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	精神的ストレスの大腸粘膜障害に与える影響	第13回日本神経消化器 病学会	宇都宮	2011年11月4-6日
岡田義清、都築義和、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、穂苺量太、栗原千枝、中村光康、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	大腸上皮系細胞 Caco 2 へのトランス脂肪酸暴露の影響について	第42回日本消化吸収学会総会、JDDW2011	福岡	2011年10月20-23日
三浦総一郎	教育講演：機能性消化管障害への今日的アプローチ	第42回日本消化吸収学会、JDDW2011, Luncheon	福岡	2011年10月20-23日
八月朔日秀明、穂苺量太、三浦総一郎	潰瘍性大腸炎および Crohn 病の aberrant lymphocyte migration に対する autotaxin の役割	第53回日本消化器病学会大会、JDDW2011	福岡	2011年10月20-23日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
上田俊秀、穂苅量太、三浦総一郎	自然発症小腸炎マウスモデルにおけるω3系多価不飽和脂肪酸の効果	第8回日本在宅静脈経腸栄養研究会学術集会	東京	2011年10月8日
佐藤伸悟、穂苅量太、八月朔日秀明、上田俊秀、岡田義清、栗原千枝、渡辺知佳子、中村光康、富田謙吾、高本俊介、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	管腔内栄養素が glutagon-like peptide-2 分泌に与える影響について	第8回日本在宅静脈経腸栄養研究会学術集会	東京	2011年10月8日
穂苅量太、八月朔日秀明、渡辺知佳子、栗原千枝、上田俊秀、高本俊介、富田謙吾、中村光康、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	炎症性腸疾患腸粘膜における白血球マイグレーション関連分子発現と内視鏡像	第29回日本大腸検査学会総会	東京	2011年9月17-18日
八月朔日秀明、穂苅量太、佐藤伸悟、上田俊秀、東山正明、栗原千枝、岡田義清、渡辺知佳子、高本俊介、中村光康、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Autotaxin/lysophospholipase D の Crohn 病・潰瘍性大腸炎における aberrant lymphocyte migration への関与	第48回日本消化器免疫学会総会	金沢	2011年7月21-22日
八月朔日秀明、穂苅量太、三浦総一郎	炎症性腸疾患での異常リンパ球マイグレーションにおける autotaxin の役割	第35回日本リンパ学会総会	東京	2011年6月3-4日
八月朔日秀明、穂苅量太、三浦総一郎	炎症性腸疾患における Autotaxin の関与	第97回日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13-15日
栗原千枝、穂苅量太、東山正明、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、岡田義清、渡辺知佳子、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	腸管マクロファージにおける LPS 誘導サイトカイン mRNA 発現に関する liver X receptor の関与	第97回日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13-15日
上田俊秀、穂苅量太、東山正明、栗原千枝、岡田義清、八月朔日秀明、佐藤伸悟、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、中村光康、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	脂肪摂取の小腸 NSAID 潰瘍における白血球マイグレーションへの影響について	第97回日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13-15日
岡田義清、都築義和、上田俊秀、東山正明、八月朔日秀明、佐藤伸悟、穂苅量太、栗原千枝、渡辺知佳子、中村光康、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	伝統的発酵食品中に存在するプロバイオティクスの大腸炎抑制作用	第97回日本消化器病学会総会	東京	2011年5月13-15日
八月朔日秀明、佐藤伸悟、上田俊秀、東山正明、岡田義清、栗原千枝、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、中村光康、穂苅量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Involvement of autotaxin/lysophospholipase D on intestinal vessels in aggravation of intestinal damage through lymphocytes migration.	第36回日本微小循環学会総会	名古屋	2011年2月11-12日
三浦総一郎	教育講演：小腸の病態における脂肪吸収の影響	第14回日本病態栄養学会年次学術集会	横浜	2011年1月15-16日
高本俊介、渡辺知佳子、佐藤伸悟、八月朔日秀明、上田俊秀、東山正明、富田謙吾、中村光康、穂苅量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	当院における高齢者炎症性腸疾患の臨床的特徴	第45回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会	東京	2011年1月15-16日
上田俊秀、穂苅量太、東山正明、栗原千枝、岡田義清、八月朔日秀明、佐藤伸悟、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、中村光康、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	各種脂肪摂取のマウス小腸 NSAID 潰瘍に対する影響について	第48回小腸研究会	名古屋	2010年11月13日
上田俊秀、穂苅量太、三浦総一郎	腸管炎症におけるω3多価不飽和脂肪酸の影響について	第8回日本機能性食品医学学会総会	大津	2010年11月11-12日
佐藤伸悟、穂苅量太、三浦総一郎	小腸のプログルカゴン由来ホルモン分泌における各種脂肪酸の影響	第52回日本消化器病学会大会、第41回日本消化吸収学会総会、JDDW2010	横浜	2010年10月13-16日
八月朔日秀明、穂苅量太、佐藤伸悟、上田俊秀、東山正明、岡田義清、栗原千枝、渡辺知佳子、中村光康、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Crohn 病および潰瘍性大腸炎における Autotaxin の関与	第52回日本消化器病学会大会、JDDW2010	横浜	2010年10月13-16日
岡田義清、都築義和、東山正明、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、穂苅量太、栗原千枝、渡辺知佳子、中村光康、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	新規プロバイオティクス Weissella paramesenteroides の DSS 大腸炎に対する炎症抑制効果	第52回日本消化器病学会大会、JDDW2010	横浜	2010年10月13-16日
東山正明、穂苅量太、栗原千枝、上田俊秀、富田謙吾、中村光康、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	腸炎における T 細胞特異的 HIF-1 の役割	第52回日本消化器病学会大会、JDDW2010	横浜	2010年10月13-16日
安武優一、安江千尋、古橋廣崇、尾崎隼人、井上悌仁、清水基規、成松和幸、早坂健司、佐藤和宏、佐藤伸悟、八月朔日秀明、上田俊秀、東山正明、渡辺知佳子、中村光康、穂苅量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	当院における緊急内視鏡止血の現況	第80回日本消化器内視鏡学会総会、JDDW2010	横浜	2010年10月13-16日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
堀内和樹、早坂健司、安武優一、佐藤和宏、成松和幸、佐藤伸悟、八月朔日秀明、上田俊秀、東山正明、渡辺知佳子、高本俊介、富田謙吾、中村光康、穂苺量太、川口 淳、三浦総一郎、永尾重昭	関節リウマチの経過中に十二指腸・大腸アミロイドーシス、潰瘍性大腸炎を合併した1例	第311回日本消化器病学会関東支部例会	東京	2010年9月11日
三浦総一郎	特別講演：潰瘍性大腸炎について	第2回日本ブラキスピラ学会学術集会	東京	2010年7月31日
東山正明、穂苺量太、栗原千枝、渡辺知佳子、富田謙吾、中村光康、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、合田亘人、三浦総一郎	T細胞特異的HIF-1欠損による消化管免疫の変化	第47回日本消化器免疫学会総会	大津	2010年7月8-9日
三浦総一郎	教育セミナー：治療ガイドラインと高齢者医療の現状と今後	第13回日本高齢消化器病学会	東京	2010年7月8-9日
穂苺量太、三浦総一郎、東山正明、上田俊秀、栗原千枝、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、渡辺知佳子、中村光康	消化管 GALT へのリンパ系細胞の trafficking と病態への関与	第34回日本リンパ学会総会	東京	2010年6月25-26日
Hokari R, Miura S.	Do platelets play important role on monocytes recruitment to inflamed intestinal mucosa?	US-Japan GI Executive Meeting 2010	Tokyo	2010年6月18日
井上梯仁、成松和幸、佐藤伸悟、早坂健司、佐藤宏和、安武優一、八月朔日秀明、上田俊秀、東山正明、中村光康、渡辺知佳子、若林寛二、穂苺量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	内視鏡で小腸病変を観察し得た Schönlein-Henoch 紫斑病 (SHP) の3例	第90回日本消化器内視鏡学会関東地方会	東京	2010年6月11-12日
岡田義清、都築義和、東山正明、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸吾、穂苺量太、栗原千枝、渡辺知佳子、中村光康、富田謙吾、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	新規プロバイオティクス Weissella paramesenteroides の実験大腸炎に対する抑制効果の検討	第6回日本食品免疫学会学術大会	東京	2010年6月1-2日
東山正明、穂苺量太、栗原千枝、松永久幸、上田俊秀、成松和幸、三浦総一郎	Cilostazol によるインドメサシン起因性小腸潰瘍の抑制効果	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22-24日
栗原千枝、穂苺量太、東山正明、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、渡辺知佳子、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	小腸および大腸に分布するマクロファージの臓器の違いによる特徴	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22-24日
上田俊秀、穂苺量太、東山正明、栗原千枝、岡田義清、八月朔日秀明、佐藤伸悟、渡辺知佳子、若林寛二、中村光康、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	各種脂肪酸投与のマウス小腸 NSAID 潰瘍に対する影響	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22-24日
岡田義清、都築義和、東山正明、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、穂苺量太、栗原千枝、中村光康、若林寛二、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	トランス脂肪酸による DSS 大腸炎の悪化とその機序の解析	第96回日本消化器病学会総会	新潟	2010年4月22-24日
穂苺量太、東山正明、栗原千枝、上田俊秀、八月朔日秀明、佐藤伸悟、中村光康、渡辺知佳子、岡田義清、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Microcirculation of lymphoid cells in gastrointestinal and its regulation.	第35回日本微小循環学会総会	大宮	2010年2月26-27日
八月朔日秀明、佐藤伸悟、上田俊秀、東山正明、岡田義清、栗原千枝、渡辺知佳子、若林寛二、中村光康、穂苺量太、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Role of autotaxin/lysophospholipase D on aberrant lymphocyte migration in inflamed intestinal mucosa.	第35回日本微小循環学会総会	大宮	2010年2月26-27日
上田俊秀、穂苺量太、東山正明、栗原千枝、岡田義清、八月朔日秀明、佐藤伸悟、渡辺知佳子、若林寛二、中村光康、川口 淳、永尾重昭、三浦総一郎	Effect of dietary fat on NSAID-induced small intestinal injury in mice.	第35回日本微小循環学会総会	大宮	2010年2月26-27日
Kurihara C, Hokari R, Higashiyama M, Ueda T, Hozumi H, Sato S, Okada Y, Watanabe C, Kawaguchi A, Nagao S, Miura S.	Exposure to fatty acid modifies cytokine mRNA expression in macrophages of different phenotypes.	The 4th Korea-Japan Inflammatory Bowel Disease Symposium	Tokyo	2010年1月23日
Inaba Y, Fujiya M, Kohgo Y	The novel probiotic function through activation of intestinal epithelial autophagy.	16th International Congress of Mucosal Immunology (ICMI 2013)	Vancouver	2013年7月17日
Fujiya M, Segawa S, Ueno N, Inaba Y, Moriichi K, Kohgo Y.	A probiotic-derived polyphosphate improves chronic inflammation and fibrosis via caveolin-dependent endocytosis.	GI Research Academy 2013	Kyoto	2013年6月28日
Inaba Y, Fujiya M, Kohgo Y.	Infliximab for the Treatment of Crohn's Disease: Infusion Reactions at a Single Center over a 10-year period.	1th AOCC	Tokyo	2013年6月13日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Sakatani A, Fujiya M, Kashima S, Tanabe H, Dokoshi T, Tanaka K, Ando K, Ueno N, Tominaga M, Inaba Y, Ito T, Moriichi K, Kohgo Y.	A bamboo-like appearance is a characteristic finding of the upper GI in patients with Crohn's disease.	DDW 2013 (ASGE),	Orland	2013年5月18日
Fujiya M, Segawa S, Ueno N, Inaba Y, Moriichi K, Tanabe H, Kohgo Y.	Polyphosphate derived from Lactobacillus contributes to the maintenance of intestinal homeostasis and the improvement of intestinal injury in experimental colitis.	10th Asian IBD Symposium	Seoul	2012年11月3日
Fujiya M, Konishi H, Sasaki K, Kohgo Y.	microRNA-18a inhibits the progression of colon cancer cells through the direct binding and down-regulation of oncogenic heterogeneous nuclear ribonucleoprotein A1 (hnRNP1).	10th Annual Discovery on Target	Boston	2012年10月2日
Fujiya M, Ueno N, Sakatani A, Dokoshi T, Ando K, Nomura Y, Kashima S, Tominaga M, Inaba Y, Ito T, Moriichi K, Kikuchi Y, Okamoto K, Tanabe H, Segawa S, Kobayashi N, Shigyo T, Kohgo Y.	Polyphosphate is a novel active molecule derived from Lactobacillus brevis that contributes to the maintenance of intestinal homeostasis and the improvement of intestinal injury in acute and chronic experimental colitis.	DDW 2012 (AGA)	San Diego	2012年5月20日
Inaba Y, Fujiya M, Musch MW, Boone D, Kohgo Y, Chang EB.	Activation of Intestinal Epithelial Autophagy as a Potential and Novel Mechanism of Probiotic Action in the Gut.	7th Congress of ECCO	Barcelona	2012年2月16日
Segawa S, Fujiya M, Konishi H, Ueno N, Kobayashi N, Shigyo T, Kohgo Y.	Lactobacillus brevis Culture Supernatant Induces Cytoprotective Small Heat Shock Protein HSP27 and Increase Intestinal Barrier Function by Activating the p38 MAPK Pathway.	15th International Congress of Mucosal Immunology (ICMI 2011)	Paris	2011年7月5日
Nata T, Fujiya M, Ueno N, Inaba Y, Moriichi K, Mizukami Y, Sato K, Kohgo Y.	microRNA-146b activates the NF-kB pathway and improves intestinal injury in a mouse enteritis model.	DDW 2011 (AGA)	Chicago	2011年5月8日
Ueno N, Fujiya M, Kohgo Y.	Heat-Killed Body of Lactobacillus brevis SBC8803 Contributes to Maintain Intestinal Homeostasis and Improve Intestinal Injury in a Murine Model of Colitis.	US-Japan GI Executive meeting,	Tokyo	2010年6月18日
Moriichi K, Fujiya M, Sato R, Nata T, Nomura Y, Ueno N, Ishikawa C, Inaba Y, Ito T, Okamoto K, Tanabe H, Watari J, Saitoh Y, Kohgo Y.	Autofluorescence Imaging Can Evaluate the Dysplastic Grade of a Colonic Neoplasm by Detecting the Nucleus Enlargement of Tumor Cells.	DDW 2010 (ASGE)	New Orleans	2010年5月3日
稲場勇平、藤谷幹浩、田中一之、堂腰達矢、坂谷 慧、安藤勝祥、上野伸展、伊藤貴博、盛一健太郎、高後 裕	当科で経験した潰瘍性大腸炎に合併した colitic cancer の検討	第 54 回日本消化器病学会大会	東京	2013年10月10日
藤谷幹浩、坂谷 慧、嘉島 伸、田中一之、堂腰達矢、藤林周吾、安藤勝祥、稲場勇平、伊藤貴博、後藤拓磨、笹嶋順平、田邊裕貴、高後 裕	上部消化管病変を指標にした 炎症性腸疾患診断の可能性	第 43 回日本消化器がん検診学会北海道地方会	札幌	2013年7月13日
稲場勇平、藤谷幹浩 伸、高後 裕	クローン病の粘膜治癒について-吻合部潰瘍の危険因子の検討から-	第 85 回日本消化器内視鏡学会総会	京都	2013年5月10日
坂谷 慧、藤谷幹浩、嘉島 伸、井尻学見、岡田哲弘、田中一之、堂腰達矢、安藤勝祥、上野伸展、富永素矢、稲場勇平、伊藤貴博、田邊裕貴、藤谷幹浩、高後 裕	クローン病に特異的な上部消化管病変の解析	第 99 回日本消化器病学会総会	鹿児島	2013年3月23日
藤谷幹浩、嘉島 伸、高後 裕	炎症性腸疾患の病態解明を目指した新しいアプローチ」腸内細菌由来物質の腸上皮内輸送を介した新しい宿主-細菌相互作用機構の同定と炎症性腸疾患病態への関与	第 99 回日本消化器病学会総会	鹿児島	2013年3月23日
坂谷 慧、藤谷幹浩、田中一之、堂腰達矢、安藤勝祥、嘉島伸、富永素矢、稲場勇平、伊藤貴博、岡本耕太郎、田邊裕貴、河野 透、古川博之、高後 裕	クローン病患者の手術頻度および腸管短縮に対する免疫調節薬の効果の検討	第 54 回日本消化器病学会大会	神戸	2012年10月11日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
安藤勝祥、稲場勇平、伊藤貴博、坂谷 慧、堂腰達矢、田中一之、野村好紀、上野伸展、嘉島 伸、富永素矢、盛一健太郎、岡本耕太郎、藤谷幹浩、高後 裕	炎症性腸疾患の静脈血栓症発症頻度とその危険因子に関する検討.	第 54 回日本消化器病学会大会	神戸	2012 年 10 月 11 日
稲場勇平、藤谷幹浩、高後 裕	IL-10 欠損マウスの腸炎成立過程におけるパネート細胞由来抗菌ペプチドの役割	第 49 回日本消化器免疫学会総会	鹿児島	2012 年 7 月 6 日
伊藤貴博、岡本耕太郎、安藤勝祥、野村好紀、嘉島 伸、富永素矢、稲場勇平、田邊裕貴、藤谷幹浩、高後 裕	潰瘍性大腸炎における内視鏡的粘膜治癒の評価と重要性. 第 83 回日本消化器内視鏡学会総会	第 83 回日本消化器内視鏡学会総会	東京	2012 年 5 月 12 日
稲場勇平、藤谷幹浩、高後 裕	プロバイオティクスによる腸管オートファジーの活性化がもたらす生体防御機能について	第 98 回日本消化器病学会総会	東京	2012 年 4 月 20 日
伊藤貴博、藤谷幹浩、高後 裕	生物学的製剤時代における IBD の治療とその選択—粘膜治癒とその長期的展望—潰瘍性大腸炎における粘膜治癒の特徴と治療選択基準としての意義	第 82 回日本消化器内視鏡学会総会	福岡	2011 年 10 月 22 日
盛一健太郎、藤谷幹浩、高後 裕.	AFI による大腸上皮性腫瘍に対する質的診断能の検討	第 80 回日本消化器内視鏡学会総会	横浜	2010 年 10 月 16 日
Kaho Hirayama, Akihiro Yamada, Ken Takeuchi, Ryuich Furukawa, Ryouta Iwasa, Hiroaki Iwashita, Taiki Sasaki, Masao Katsumata, Miyamura Miyuki, Hidemasa Kikuchi, Koji Sono, Aisaku Osamura, Kentarou Nakamura, Hiroshi Aoki, Yasushi Yoshimatsu, Yukiko Tsuda, Nobuo Takada, Yasuo Suzuki	THE EFFICACY OF TACROLIMUS IN PATIENTS WITH ULCERATIVE COLITIS REFRACTORY TO CORTICOSTEROIDS AFTER FAILURE OF INFLIXIMAB REMISSION INDUCTION THERAPY.	UEGW 2013	Vienna, Austria	2013 年 10 月 15 日
Ken Takeuchi, Akihiro Yamada, Yasuo Suzuki	TIMING OF SWITCHING FROM INFLIXIMAB TO ADALIMUMAB IN THE TREATMENT OF CROHN'S DISEASE.	UEGW 2013	Vienna, Austria	2013 年 10 月 15 日
Yasuo Suzuki, Tshiyuki Matsui, Hiroaki Ito, Toshifumi Ashida, Takayuki Maysumoto, Satoshi Motoya, Takayuki Mtsumoto, Mamoru Watanabe, Noriko Sato, Kunihiko Ozaki, and Toshifumi Hibi	High level of serum infliximab and albumin and low levels of plasma interleukin-6 before dose escalation are good predictors of efficacy of infliximab intensification therapy in patients with loss of response in Crohn's disease.	Tokyo	AOCC 2013	2013 年 6 月 13 日
Ken takeuchi, Rumiko Kasai, Akihiro Yamada, Kazushi Terada, Yasuo Suzuki	A Report on Computed Tomography Enterography Findings of Active Crohn's Disease and the Efficacy of Biologic Therapy.	Tokyo	AOCC 2013	2013 年 6 月 13 日
Akihiro Yamada, Taiki Sasaki, Miyuki Miyamura, Masao Katsumata, Hidemasa Kikuchi, Ryouta Iwasa, Ryuich Furukawa, Koji Sono, Aisaku Osamura, Kentarou Nakamura, Hiroshi Aoki, Yasushi Yoshimatsu, Yukiko Tsuda, Ken takeuchi, Nobuo Takada, Yasuo Suzuki	The association between the efficacy of oral Tacrolimus for maintaining remission and the induction of endoscopic mucosal healing in patients with corticosteroids refractory ulcerative colitis.	Tokyo	AOCC 2013	2013 年 6 月 13 日
Ken takeuchi, Akihiro Yamada, Yasuo Suzuki	Efficacy of Tacrolimus in Patients With Active Ulcerative Colitis Refractory to Corticosteroids after failure of Inflixmab Remission Induction Therapy.	Orlando, FL, USA	DDW2013	2013 年 5 月 18 日-21 日
Ken takeuchi, Akihiro Yamada, Yasuo Suzuki	The Efficacy of Infliximab in Patients With Corticosteroid Refractory Ulcerative Colitis WHO Responded to Tacrolimus As Remission Induction Therapy, but Relapsed While Under Maintenance Tacrolimus.	Orlando, FL, USA	DDW2013	2013 年 5 月 18 日-21 日
Akihiro Yamada, Ken takeuchi, Yasuo Suzuki	Mucosal Healing in Patients With Crohn's Disease During Scheduled Infliximab Maintenance Therapy Initiated Following Surgical Resection of Active Lesions.	Orlando, FL, USA	DDW2013	2013 年 5 月 18 日-21 日
Yasuo Suzuki	Biologics : Who are the best candidates?	Asian IBD Symposium-Seoul2012	Seoul, Korea	2012 年 11 月 2 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Ryota Iwasa, Akihiro Yamada, Miyuki Ryu, Masao Katsumata, Hidemasa Kikuchi, Ryuichi Hurukawa, Kouji Sono, Aisaku Osamura, Kentarou Nakamura, Hiroshi Aoki, Yasushi Yoshimatsu, Yukiko Tsuda, Nobuo Takada, Ken Takeuchi, <u>Yasuo Suzuki</u>	The association between the effectiveness of IFX on maintenance of remission and the endoscopic findings in the patients with ulcerative colitis refractory to corticosteroids.	Asian IBD Symposium-Seoul2012	Seoul, Korea	2012年11月2日
Hiroshi Aoki, Ryuichi Furukawa, Akihiro Yamada, <u>Yasuo Suzuki</u>	Oral Tacrolimus Versus Cyclosporine A in Patients with Moderate to Severe Ulcerative Colitis Refractory to Corticosteroids.	DDW2012	San Diego, USA	2012年5月22日
Yasuo Suzuki, Soetsu Inou, Kan Uchiyama, Masahisa Kato, Keigo Matsuo, Tatsuro Katsuno, Kazuki Kato, Hiroshi Kishikawa, Norio Kimura	Segmental Endoscopic Evaluation of Combined Oral and Topical Mesalazine (PentasaR) in patients with mild-to-moderate Ulcerative Colitis.	DDW2012	San Diego, USA	2012年5月21日
Akihiro Yamada, <u>Yasuo Suzuki</u>	Improved Mucosal Healing During infliximab Maintenance Therapy Initiated Following Resection of Active Lesions in Crohn's Disease Patients.	DDW2012	San Diego, USA	2012年5月19日-5月22日
M. Satoh, M. Tsuchiya, T. Yamauchi, H. Doi, T. Masaka, <u>Y. Suzuki</u>	Comparison of treatment efficacy with purine derivatives and infliximab in patients with refractory Crohn's disease.	The 2 nd current drug development international conference	Hat Yai, Thailand	2012年5月1日
<u>Yasuo Suzuki</u>	Medical Treatment of Patients with Inflammatory Bowel Disease in Japan.	2011 Asian IBD Symposium in Tokyo	Tokyo	2011年11月13日
Yasuo Suzuki, Akihiro Yamada	Improved mucosal healing during infliximab maintenance therapy initiated following resection of active lesions in Crohn's disease patients.	UEGW 2011	Stockholm, Sweden	2011年10月22日-10月26日
<u>Yasuo Suzuki</u>	IMPROVED MUCOSAL HEALING DURING SCHEDULED INFLIXIMAB MAINTENANCE THERAPY IN PATIENTS WITH CROHN'S DISEASE INITIATED FOLLOWING SURGICAL RESECTION OF ACTIVE LESIONS.	UEGW 2011	Stockholm, Sweden	2011年10月22日-10月26日
Akihiro Yamada, <u>Yasuo Suzuki</u> , Koji Sono	A new assay for monitoring functional serum infliximab level in Crohn's disease patients.	UEGW 2011	Stockholm, Sweden	2011年10月22日-10月26日
Katsuno T, Uchiyama k, Yamada A, Osamura A, Nakagawa T, Sato T, Inou S, <u>Suzuki Y</u>	PREDICTORS OF CLINICAL RESPONSE IN PATIENTS WITH ACTIVE CROHN'S DISEASE TREATED WITH ADSORPTIVE GRANULOCYTE AND MONOCYTE APHERESIS.	UEGW 2011	Stockholm, Sweden	2011年10月22日-10月26日
<u>Yasuo Suzuki</u>	Adacolumn leukocytapheresis as an effective non-pharmacological treatment strategy for steroid naïve patients with ulcerative colitis : Demographic factor impacting clinical response.	ISFA Vienna 2011	Vienna, Austria	2011年9月14日-9月17日
Saniabadi AR, <u>Suzuki Y</u>	Adacolumn therapeutic leukocytapheresis in inflammatory bowel disease : Logics and mechanism of effects.	ISFA Vienna 2011	Vienna, Austria	2011年9月14日-9月17日
<u>Yasuo Suzuki</u> , Akihiro Yamada	A New Assay for Monitoring Functional Serum Anti-Tumour Necrosis Factor Antibody Level in Crohn's Disease Patients Who Maintained and Those Who Lost Response to Anti-TNF.	DDW 2011	Chicago, USA	2011年5月7日-5月10日
Yasuo Suzuki, Akihiro Yamada, Yasushi Yoshimatsu	A single centre randomized-double-blind placebo controlled study showed benefit for probiotics in the prevention of relapse of quiescent ulcerative colitis	UEGW2010	Barcelona, Spain	2010年10月1日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Yasuo Suzuki ,Akihiro Yamada , Koji Sono,Nobuo Hosoe ,Nobuo Takada	Development and validation of a new assay for monitoring functional serum antitumor necrosis factor antibody level in Crohn's disease patients who maintained and those who lost response to anti-TNF.	UEGW2010	Barcelona, Spain	2010年10月1日
Tomoyuki Tsujikawa, Akira Andoh, Yoshihide Fujiyama, Shiro Nakamura, Takayuki Matsumoto, Nobuo Hosoe, Yasuo Suzuki, Fumihiko Hirai, Toshiyuki Matsui	Exhaustive analysis of inflammation, nutrition and oxidative stress in Crohn's disease during induction therapy.	UEGW2010	Barcelona, Spain	2010年10月1日
Yasuo Suzuki, Abbi Saniabadi, Hiroshi Aoki	Corticosteroid naive patients and patients with the first ulcerative colitis episode and short duration of disease are most likely to respond well to therapeutic leukocytapheresis with the adacolumn.	DDW2010	New Orleans, USA	2010年5月1日-5月5日
鈴木康夫	GMA クロウン病治療への挑戦.	第 68 回日本大腸肛門学会学術集会	仙台市	2013年11月16日
鈴木康夫	炎症性腸疾患治療における血球成分吸着除去療法	第 34 回日本アフェレシス学会学術大会	軽井沢	2013年11月3日
鈴木康夫	広がるヒュミラの IBD 治療.	JDDW2013 Tokyo,	東京	2013年10月10日
山田哲弘, 鈴木康夫, 他	クロウン病関連消化管癌の検討.	JDDW2013 Tokyo,	東京	2013年10月10日
鈴木康夫	炎症性腸疾患診療の最前線 クロウン病の治療—基礎から応用へ.	第 22 回日本大腸肛門学会教育セミナー	横浜	2013年5月26日
岩佐亮太, 竹内 健, 鈴木康夫	難治性潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ投与の有用性と内視鏡的粘膜評価 インフリキシマブ継続率・寛解維持率の検討.	第 85 回日本内視鏡学会総会	京都	2013年5月10日
竹内 健, 鈴木康夫, 他	CT enterography によるクロウン病治療法の選択	第 99 回日本消化器病学会	鹿児島	2013年3月23日
曾野浩治, 山田哲弘, 鈴木康夫	(ワークショップ 8) IFX 二次無効クロウン病における関連因子の検討.	第 99 回日本消化器病学会	鹿児島	2013年3月21日
勝俣雅夫, 山田哲弘, 竜 美幸, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 古川竜一, 曾野浩治, 長村愛作, 中村健太郎, 青木 博, 吉松安嗣, 津田裕紀子, 竹内 健, 高田伸夫, 鈴木康夫	(ワークショップ 3) 若年性難治性潰瘍性大腸炎患者における intensive GCAP の有用性.	第 9 回日本消化管学会総会学術総会	東京	2013年1月25日
内山 幹, 鈴木康夫, 伊能崇税, 加藤正久, 松尾恵五, 中川倫夫, 岸川 浩, 木村典夫, 加藤佳瑞紀	(ワークショップ 3) 区域別内視鏡スコアをもちいたメサラジン経口/局所併用投与療法の粘膜治癒評価.	第 9 回日本消化管学会総会学術総会	東京	2013年1月25日
岩佐亮太, 竹内 健, 鈴木康夫	難治性潰瘍性大腸炎インフリキシマブ治療における粘膜治癒の意義.	第 9 回日本消化管学会総会学術総会	東京	2013年1月25日
鈴木康夫	5-ASA 治療の最大化と最適化による潰瘍性大腸炎治療の実践.	日本消化器病学会東海支部第 117 回例会ランチョンセミナー	東京	2012年11月17日
古川竜一, 山田哲弘, 青木 博, 鈴木康夫	潰瘍性大腸炎に対するタクロリムスの有用性.	JDDW2012 KOBE	神戸	2012年10月10日-10月13日
吉松安嗣, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 古川竜一, 山田哲弘, 曾野浩治, 長村愛作, 中村健太郎, 青木 博, 高田伸夫, 鈴木康夫	クロウン病治療におけるインフリキシマブ血中濃度と CRP の関係.	JDDW2012 KOBE	神戸	2012年10月11日
鈴木康夫	(ランチョンセミナー) 治験成績を日常臨床へ—患者の印象は?	JDDW2012 KOBE	神戸	2012年10月13日
竹内 健, 笠井ルミ子, 山田哲弘, 勝俣雅夫, 竜 美幸, 古川竜一, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 曾野浩治, 長村愛作, 中村健太郎, 青木 博, 吉松安嗣, 津田裕紀子, 高田伸夫, 寺田一志, 鈴木康夫	CT による IBD 診断.	第 30 回日本大腸検査学会	東京	2012年9月1日
鈴木康夫	難治性 IBD の内視鏡像と最新の治療戦略.	日本消化器内視鏡学会セミナー	東京	2012年5月15日
浦野 敦, 川名秀俊, 曾野浩治, 有賀喜代子, 河合貴行, 小川裕司, 清水ますみ, 真坂 互, 鈴木康夫	クロウン病治療への薬剤師の関わり.	第 8 回日本消化管学会総会学術集会	東京	2012年2月10日-2月11日
鈴木康夫	炎症性大腸炎疾患に対するレミケード治療を最大化させる為の最適な使用方法.	第 66 回日本大腸肛門学会学術集会	福岡	2011年11月25日
鈴木康夫	炎症性腸疾患治療における新たな展開.	日本消化器病学会教育講演会	盛岡	2011年11月20日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
鈴木康夫	炎症性大腸炎疾患に対するレミケード治療を最大化させる為の最適な使用法.	第 66 回日本大腸肛門学会 学術集会	弘前	2011 年 11 月 1 日
鈴木康夫	(ブレックファーストセミナー)新しい時代のクローン病栄養療法の可能性	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 23 日
鈴木康夫	(サテライトシンポジウム: 消化器内視鏡学会) New therapeutic targets in Crohn' s Disease.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 22 日
鈴木康夫	New therapeutic targets in Crohn' s Disease. .	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 22 日
鈴木康夫	(サテライトシンポジウム: 消化器病学会) 粘膜治療へのアプローチ 日米欧の診療ガイドライン.	JDDW2011	東京	2011 年 10 月 20 日
曾野浩治, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 古川竜一, 山田哲弘, 長村愛作, 中村健太郎, 青木 博, 吉松安嗣, 津田裕紀子, 佐藤 徹, 高田伸夫, 鈴木康夫	5-ASA 製剤不耐潰瘍性大腸炎に対する IFX の有効性.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日
中村健太郎, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 古川竜一, 山田哲弘, 曾野浩治, 長村愛作, 青木博, 吉松安嗣, 佐藤 徹, 高田伸夫, 鈴木康夫	免疫調整剤がインフリキシマブの体内動態に与える影響の検討.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日
鈴木康夫	粘膜治療へのアプローチ 日米欧の診療ガイドライン.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日
山田哲弘, 岡住慎一, 鈴木康夫	(パネルディスカッション 19) クローン病における Re-set 療法と粘膜治療の検討.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日 - 10 月 23 日
古川竜一, 山田哲弘, 鈴木康夫	(シンポジウム 25) IBD の治療戦略: 内科治療の限界と外科治療へのタイミング-難治性潰瘍性大腸炎に対する内科治療の検討.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日 - 10 月 23 日
曾野浩治, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 古川竜一, 山田哲弘, 長村愛作, 中村健太郎, 青木 博, 吉松安嗣, 津田裕紀子, 佐藤 徹, 高田伸夫, 鈴木康夫	5-ASA 製剤不耐潰瘍性大腸炎に対する IFX の有効性.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日 - 10 月 23 日
中村健太郎, 菊地秀昌, 岩佐亮太, 古川竜一, 山田哲弘, 曾野浩治, 長村愛作, 青木博, 吉松安嗣, 佐藤 徹, 高田伸夫, 鈴木康夫	免疫調整剤がインフリキシマブの体内動態に与える影響の検討.	JDDW2011	福岡	2011 年 10 月 20 日 - 10 月 23 日
青木 博, 勝野達郎, 内山 幹, 伊能崇税, 鈴木康夫	(シンポジウム) IBD におけるアフェレーシス療法の最前線-QOL の向上を目指した治療戦略とは-活動期クローン病に対する GCAP 療法の有効性の検討.	第 32 回日本アフェレーシス学会学術大会	東京	2011 年 10 月 1 日
鈴木康夫	(ランチョンセミナー) 潰瘍性大腸炎に対する新たな治療のオプション-インフリキシマブの有効性の検討-	第 29 回大腸検査学会総会	名古屋	2011 年 9 月 18 日
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎に対する新たな治療のオプション-インフリキシマブの有効性の検討-	第 29 回大腸検査学会総会	福岡	2011 年 9 月 1 日
鈴木康夫	(シンポジウム) 日本から発信する IBD 治療の工夫と標準化 炎症性腸疾患における血球成分吸着除去療法.	第 9 7 回日本消化器病学会総会	Tokyo, Japan	2011 年 5 月 14 日
鈴木康夫	(ランチョンセミナー) : クローン病治療の新治療-Top down & Reset therapy-	第 6 6 回日本消化器外科学会総会	東京	2011 年 7 月 13 日
鈴木康夫	日本から発信する IBD 治療の工夫と標準化 炎症性腸疾患における血球成分吸着除去療法.	第 9 7 回日本消化器病学会総会	東京	2011 年 5 月 1 日
Okazaki K	Lymphoproliferative disorders in the Japanese patients with inflammatory bowel disease.	6th Korea-Japan IBD symposium	Tokyo	2012 年 1 月 28 日
Masaaki Shimatani, Kazuichi Okazaki	Lymphoproliferative Disorders in Japanese Patients with Inflammatory Bowel Disease	The 1st Capsule Endoscopy Experts Forum 2012 Vienna, Austria The Imperial Riding School Vienna, A Renaissance Hotel	Vienna, Austria	2012 年 2 月 18 日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Takashi Okazaki, Akiyoshi Nishio, Yutaku Sakaguchi, Toshiro Fukui, Kazushige Uchida, <u>Kazuichi Okazaki</u>	Amelioration of endoplasmic reticulum stress through enhanced PERK signaling attenuates murine experimental colitis.	UEGW2012 (United European Gastroenterology Week)	Amsterdam	2012年10月24日
Takashi Okazaki, Akiyoshi Nishio, Yutaku Sakaguchi, Toshiro Fukui, Kazushige Uchida, <u>Kazuichi Okazaki</u>	Endoplasmic Reticulum Stress Inhibitor Salubrinal protects against Murine Experimental Colitis via the PERK-eIF2 α signaling pathway.	DDW2013 Orland County Convention Center	Orland/Florida	2013年5月18-21日
Takashi Okazaki, Akiyoshi Nishio, Masahiro Takeo, Toshikazu Inoue, Yutaku Sakaguchi, Toshiro Fukui, Kazushige Uchida, <u>Kazuichi Okazaki</u>	Endoplasmic Reticulum Stress Inhibitor Salubrinal protects against Murine Experimental Colitis via the PERK-eIF2 α signaling pathway.	The 1st Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's & Colitis (AOCC)	東京	2013年6月13日
Yu Takahashi, Toshiro Fukui, Ryo Suzuki, Masanobu Kishimoto, Kazushige Uchida, Koichi Matsuzaki, Akiyoshi Nishio, <u>Kazuichi Okazaki</u>	Phosphorylation of smad2/3 in stem cells of small intestine	Phosphorylation of smad2/3 in stem cells of small intestine	Berlin, Germany	2013年10月14日
岸本真房, 鈴木 亮, 高橋 悠, 福井寿朗, 坂口雄沢, 内田一茂, 西尾彰功, <u>岡崎和一</u>	リンカー部スレオニンリン酸化 smad2/3 蛋白発現による腸管幹細胞マーカーの探索	第50回日本臨床分子医学学会学術集会	東京	2013年4月12日
高橋 悠, 福井寿朗, <u>岡崎和一</u>	pSmad2/3L-Thr の消化管幹細胞マーカーとしての検討とその応用	第99回日本消化器病学会総会	鹿児島	2013年3月21日
伊藤嵩志, 段原直行, 岩田裕樹, 堀 雄一, 楠田武生, 若松隆宏, 森 茂生, 田橋賢也, 關 壽人, <u>岡崎和一</u>	Amelioration of Endoplasmic Reticulum Stress Through Enhanced PERK Signaling Attenuates Murine Experimental Colitis	日本内科学会第199回近畿地方会	大阪	2012年12月8日
内田一茂, <u>岡崎和一</u> , 正宗 淳, 下瀬川 徹	リンカー部スレオニンリン酸化 smad2/3 蛋白発現による腸管幹細胞マーカーの探索	第8回消化器病における性差医学・医療研究会	京都	2012年8月1日
<u>岡崎和一</u> , 岸本真房, 鈴木 亮, 高橋 悠, 福井寿朗, 坂口雄沢, 内田一茂, 西尾彰功	我が国における炎症性腸疾患の急性増悪・再燃因子の前向き実態調査（特に感染症との関連性）	厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成24年度第1回総会	東京	2012年7月1日
島谷昌明, 松下光伸, <u>岡崎和一</u>	消化管上皮における pSmad2/3L-Thr 陽性細胞の検討	第98回 日本消化器病学会 総会	東京	2012年4月19日
島谷昌明, 深田憲将, 三好秀明, 宮本早知, 若松隆宏, 松下光伸, 高岡 亮, <u>岡崎和一</u>	マウス DSS 腸炎モデルを用いた smad2/3 リン酸化蛋白発現による幹細胞マーカーの探索	第8回 日本消化管学会 総会	仙台	2012年2月10日
<u>岡崎和一</u> , 深田憲将, 松下光伸, 大宮美香, 渡辺 守	我が国における炎症性腸疾患の急性増悪・再燃因子の前向き実態調査（特に感染症との関連性）	厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成23年度第2回総会	東京	2012年1月27日
<u>岡崎和一</u> , 岸本真房, 高橋 悠, 中島 淳, 福井寿朗	我が国における IBD 患者のリンパ増殖性疾患の現状に関する実態調査 -第4報-	厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成23年度第2回総会	東京	2012年1月27日
Minoru Matsuura, Takuya Yoshino, Hiroshi Nakase	Characteristics of colonoscopic features in patients with ulcerative colitis concomitant cytomegalovirus infection	The 1st annual meeting of Asian organization for Crohn's & Colitis・Panel Discussion	Tokyo	2013年6月13日
Hiroshi Nakase, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	The critical role of heparan sulfate in intestinal crypt regeneration of small intestine via Wnt/ β catenin signaling after radiation injury	DDW2013・Lecture session	Orlando, USA	2013年5月19日
Takuya Yoshino, Hiroshi Nakase, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	Effect of early induction with thiopurine immunomodulator treatment on long-term clinical remission on patients with Crohn's disease	DDW2013・Poster session	Orlando, USA	2013年5月19日
Takuya Yoshino	The role of ral in colitis-associated cancer in mice	The 8th JSGE AGA Joint Meeting・The 2nd JSGE International Topic Conference	Kagoshima	2013年3月22日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
Yusuke Honzawa, Hiroshi Nakase, Kayoko Matsuura, Norimitsu Uza, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	The involvement of IL-17-induced heat shock protein 47 in intestinal fibrosis of Crohn's disease	The 6th Japan and US Collaboration Conference in Gastroenterology Program	Tokyo	2012年11月15日
Yusuke Honzawa, Hiroshi Nakase, Kayoko Matsumura, Takuya Yoshino, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	The involvement of IL-17A in intestinal fibrosis of Crohn's disease via up-regulation of HSP47	The 20th United European gastroenterology week (UEGW)	Amsterdam, Netherlands	2012年10月24日
Hiroshi Nakase, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	Osteopontin prevents onset of immune-mediated colitis by inducing tolerogenic dendritic cells	DDW2012・Poster sessions	San Diego, USA	2012年5月22日
Yusuke Honzawa, Hiroshi Nakase, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	Concomitant use of immunosuppressive drugs improves clinical outcome of endoscopic balloon dilation therapy for intestinal stricture of Crohn's disease	DDW2012	San Diego Convention Center	2012年5月19日
Takuya Yoshino, Hiroshi Nakase, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	Mucosal healing with tacrolimus improved long-term clinical outcome in refractory UC	DDW2012	San Diego Convention Center	2012年5月19日
Minoru Matsuura, Hiroshi Nakase, Yusuke Honzawa, Shuji Yamamoto, Kayoko Matsumura, Norimitsu Uza, <u>Tsutomu Chiba</u>	Characteristics of colonoscopic features in patients with ulcerative colitis concomitant with cytomegalovirus reactivation	2011 DDW・poster sessions	Chicago, USA	2011年5月9日
Yusuke Honzawa, Hiroshi Nakase, Kayoko Matsumura, Shuji Yamamoto, Norimitsu Uza, Minoru Matsuura, <u>Tsutomu Chiba</u>	IL-17 promotes HSP47 expression and intestinal fibrosis in Crohn's disease	2011 DDW・poster sessions	Chicago, USA	2011年5月8日
谷 優佑、味岡洋一、渡辺佳緒里、若井俊文、山口尚之、高林広明、小林和恵	潰瘍性大腸炎の炎症性発癌過程におけるDNA損傷	第102回日本病理学会総会	札幌	2013年6月7日
渡辺佳緒里、味岡洋一、谷 優佑、小林和恵	潰瘍性大腸炎における胃型粘液発現の検討	第102回日本病理学会総会	札幌	2013年6月7日
味岡洋一	特別発言：パネルディスカッション 3 Colitic cancerの診断と治療におけるup to date	第67回日本大腸肛門病学会学術総会	福岡	2012年11月21日
高林広明、味岡洋一、若井俊文	大腸腫瘍の発育進展における、53BP1を介したDNA損傷修復応答の変化	第70回日本癌学会学術総会	名古屋	2011年10月5日
味岡洋一	内視鏡医のための病理セッション 炎症性発癌の病理診断	第82回日本消化器内視鏡学会総会	福岡	2011年10月22日
味岡洋一	コアンボジウム2 炎症性腸疾患：colitic cancerの診断と治療の進歩	第8回日本消化管学会総会学術集会	仙台	2012年2月11日
<u>Ajioka Y</u>	Pathology of Colitic Cancer	The 2nd International Forum of the 96 Annual Meeting of the Japanese Society of Gastroenterology	Niigata	2010年4月23日
須田和敬、味岡洋一	特別企画シンポジウム－炎症性腸疾患からの発癌－潰瘍性大腸炎の発癌背景 粘膜の粘液形質変化	第6回日本消化管学会	福岡	2010年2月19日
高橋賢一、舟山裕士、生澤史江、西條文人、福島浩平、小川 仁、羽根田 祥、渡辺和宏、神山篤史、鈴木秀幸	難治性潰瘍性大腸炎の治療選択(寛解導入と寛解維持) タクロリムスとインフリキシマブの登場は潰瘍性大腸炎の外科治療移行のタイミングや手術成績に影響を与えたか?	第50回日本大腸肛門病学会	東京	2013年11月16日
虹川大樹、村山晶俊、梅林宏明、阿部 弘、稲垣徹史、三浦克志、天江新太郎、佐藤智行、中村恵美、武山淳二、 <u>福島浩平</u> 、武田弘明、磯部秀樹	ともに大腸全摘に至った重症潰瘍性大腸炎の父子例	第40回日本小児栄養消化器肝臓学会	東京	2013年11月2日
高橋賢一、舟山裕士、生澤史江、徳村弘実、豊島 隆、武者宏昭、西條文人、松村直樹、武藤 満完、安本明浩、 <u>福島浩平</u> 、小川 仁、羽根田 祥、渡辺和宏、鈴木秀幸、佐々木 巖	Crohn病症例の大腸(亜)全摘術におけるHALSの適応と成績	日本内視鏡外科学会	福岡	2013年11月28日
高橋賢一、舟山裕士、徳村弘実、豊島 隆、武者宏昭、西條文人、松村直樹、野村良平、武藤満完、安本明浩、松村 勝、山田佳緒里、 <u>福島浩平</u> 、小川仁、羽根田 祥、渡辺和宏、鈴木秀幸、佐々木 巖	Surgical Site Infection 予防最新プラクティス 炎症性腸疾患手術例における切開創手術部位感染予防 有効な予防策と問題点の検討	第112回日本外科学会	幕張	2012年4月12日

学会発表に関する一覧表

発表者名	演題名	学会名	会場	日時
渡辺和宏, 佐々木 巖, 福島浩平, 舟山裕士, 杉田 昭, 二見喜太郎, 池内浩基, 根津理一郎, 水島恒和, 亀岡信悟, 楠 正人, 吉岡和彦, 畠山勝義, 藤井久男, 渡邊聡明, 渡邊昌彦, 渡辺 守	炎症性腸疾患に対する外科治療の現況と展望 クロウン病の手術症例における腸管不全(短腸症候群)の実態 多施設共同研究	第 112 回日本外科学会	幕張	2012 年 4 月 12 日
高橋賢一, 舟山裕士, 池澤史江, 徳村弘実, 豊島 隆, 武者宏昭, 西條文人, 鈴木 洋, 松村直樹, 武藤満完, 安本明浩, 又吉信貴, 澤田健太郎, 柴原みい, 福島浩平, 小川 仁, 渡辺和宏, 羽根田 祥, 鈴木秀幸, 佐々木 巖	炎症性腸疾患手術例に対する術前の完全静脈栄養の栄養アセスメント蛋白改善効果に関する検討	第 49 回 外科と代謝・栄養	浦安	2012 年 7 月 5 日
高橋賢一, 舟山裕士, 池澤史江, 西條文人, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 佐々木 巖	IBD 診療における外科と内科の接点(難治症例の治療方針) 炎症性腸疾患手術例に対する術前の完全静脈栄養の意義 栄養改善効果の面からの検討	第 49 回日本大腸肛門病学会	福岡	2012 年 11 月 16 日
平嶋 均, 熊谷英子, 高橋真紀, 佐々木 巖, 渡辺和宏, 羽根田 祥, 福島浩平	消化器系ストーマ感染起因菌の分子生物学的解析(第 1 報)	第 29 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会	郡山	2012 年 2 月 15 日
福島浩平, 神山篤史, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 小川 仁, 柴田 近, 佐々木 巖, 舟山裕士, 高橋賢一	大腸全摘術後回腸囊の腸内細菌叢の変動	第 48 回日本大腸肛門病学会	東京	2011 年 11 月 25 日
高橋賢一, 舟山裕士, 西條文人, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 佐々木 巖, 熊谷英子	IBD におけるストーマ造設例の長期経過 炎症性腸疾患症例におけるストーマ合併症とその対策	第 48 回日本大腸肛門病学会	東京	2011 年 11 月 25 日
高橋賢一, 舟山裕士, 徳村弘実, 山崎満夫, 西條文人, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 佐々木 巖	周術期にカリニ肺炎を合併した重症潰瘍性大腸炎手術例の治療成績	第 65 回日本消化器外科学会総会	東京	2011 年 7 月 4 日
高橋賢一, 舟山裕士, 徳村弘実, 豊島 隆, 武者宏昭, 西條文人, 松村直樹, 野村良平, 武藤満完, 安本明浩, 松村 勝, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 佐々木 巖, 山田佳緒里	ストーマ関連手術における適切な手術部位感染予防策の検討	第 112 回日本外科学会	東京	2011 年 5 月 27 日
日當愛美, 小森佑奈, 佐々木佳織, 神山篤史, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 長尾宗徳, 林 啓一, 小川 仁, 柴田 近, 佐々木 巖, 高橋賢一, 舟山裕士, 福島浩平	潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘術後の腸内細菌叢の変動	第 15 回腸内細菌学会	東京	2011 年 11 月 25 日
小森佑奈, 佐々木 佳織, 日當 愛美, 鈴木秀幸, 福島 浩平	Differential Display による腸内細菌 mRNA 解析の試み	第 15 回腸内細菌学会	東京	2011 年 11 月 25 日
柴崎真澄, 熊谷英子, 高橋真紀, 福島浩平, 舟山裕士, 佐々木 巖	医療変革時代のストーマリハビリテーション教育	第 28 回ストーマリハビリテーション学会	福岡	2011 年 2 月 4 日
高橋賢一, 舟山裕士, 徳村弘実, 豊島 隆, 武者宏昭, 西條文人, 松村直樹, 野村良平, 武藤満完, 安本明浩, 松村 勝, 福島浩平, 小川 仁, 佐々木 巖, 増子 毅	直腸癌に対する低位前方切除術の 5 年後に発症し、大腸全摘兼回腸囊肛門管吻合術を行った高齢者重症潰瘍性大腸炎の 1 例	第 72 回日本臨床外科学会総会	横浜	2010 年 11 月 22 日
高橋賢一, 舟山裕士, 徳村弘実, 豊島 隆, 武者宏昭, 西條文人, 松村直樹, 野村良平, 武藤満完, 安本明浩, 松村 勝, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏	大腸手術における切開創手術部位感染のリスク因子解析	第 72 回日本臨床外科学会総会	横浜	2010 年 11 月 22 日
高橋賢一, 舟山裕士, 徳村弘実, 豊島 隆, 武者宏昭, 西條文人, 松村直樹, 佐々木宏之, 野村良平, 安本明浩, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 佐々木 巖	潰瘍性大腸炎重症例に対する外科治療戦略と成績.	第 85 回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010 年 11 月 26 日
舟山裕士, 高橋賢一, 西條文人, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木貴幸, 福島浩平, 佐々木 巖	ストーマ造設合併症の分類と問題点 合併症をおこさない回腸及び結腸ストーマの造設法	第 85 回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010 年 11 月 26 日
高橋賢一, 舟山裕士, 西條文人, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 佐々木 巖	大腸全摘兼回腸囊肛門(管)吻合術後に回腸囊前壁の stapleline が脱出あるいは下垂し、排便困難を来した潰瘍性大腸炎の 2 例	第 85 回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010 年 11 月 26 日
渡辺和宏, 柴田 近, 三浦 康, 内藤 剛, 小川 仁, 鹿郷昌之, 木内 誠, 安藤敏典, 矢崎伸樹, 田中直樹, 羽根田 祥, 佐藤 学, 舟山裕士, 高橋賢一, 福島浩平, 佐々木 巖	クローン病の術後長期経過例における腸管不全(短腸症候群)の検討	第 85 回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010 年 11 月 26 日
高橋賢一, 舟山裕士, 西條文人, 福島浩平, 小川 仁, 羽根田 祥, 渡辺和宏, 鈴木秀幸, 佐々木 巖	消化管ストーマ造設と便秘診療の標準化をめざして ストーマ造設合併症の分類と問題点	第 85 回日本大腸肛門病学会総会	浜松	2010 年 11 月 26 日